



人狼ゲーム



ドッジボール
卒業生対在校生



卒業生へ記念品贈呈

と
も
灯
し
び

青森県立八戸工業高等学校
定時制 保護者と教職員の会
(PTA) 事務局 発行

2月8日(金)

卒業生を送る会

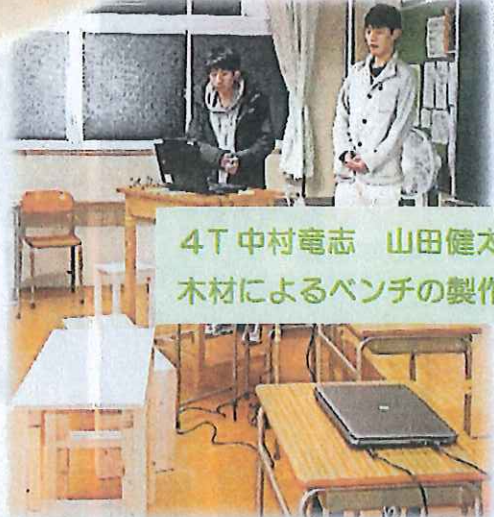
課題研究発表会

1月25日(金)

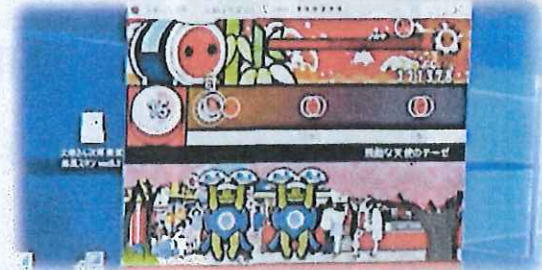


3T 中川原和真
電動キックボード製作

4T 秋山悠真
境 悠真
佐藤龍太
山口聖龍
ロールプレイング
とリスロゲールの
製作



4T 中村竜志 山田健太
木材によるベンチの製作





平成の終わりに

教頭 中村 健一

一年が過ぎるのが早いと感じるのは、年齢を重ねたためでしょうか。今年に限って言えば、年のせいではないように思います。

今年度を含めて三十年間の教職のほとんどは、各学年七クラス以上の大規模校勤務で、初めての小規模校勤務は、存続が危ぶまれていた前任校でしたが、それでも八十名前後の生徒がいました。本校に赴任して、実業高

校も初めてなら、定時制も初めて、全校生徒十四名で生徒と教員の数はほとんど一緒という学校も初めて、加えて創立五十周年の記念事業が予定されておりました。初めてづくしの年でありました。それでも、何とかこうして三月を赴任当時よりも穏やかな気持ちで迎えることができるのは、ひとえに五十周年記念事業実行委員会の委員長を務めてくださった上柿様、同窓会長の畑中様、元ETA長河原木様、全日制後援会顧問の古戸様、北向様、和田前教頭、定時制OBの皆様、瀬川校長はじめ全日制を含む本校職員の皆様、そして何より、中村PTA会長をはじめとする保護者の皆様のご支援とご協力の賜物であり、この場を借りて心からの謝意を表します。

お陰様で、創立五十周年記念事業は昨年十二月十三日の実行委員事業報告会（解散会）をもって、無事終了しました。振り返れば、十一月二日には、佐々木副知事、熊谷県議会議長他大勢の御来賓のご臨席のもと、記

念式典を盛大に挙行することができました。生徒会長の山田君をはじめ本校生徒の堂々とした様子は、地元の各紙に報じられました。式典に先立ち、校舎前で記念碑の除幕式を行い、校歌碑のとなりに見事なデザインの記念碑が建立されました。また、式典の際、来賓と定時制生徒職員に配布した記念誌「学灯拓魂」は本校の草創期から今日までの貴重な記録となりました。記念品として配布した和手ぬぐいは緑地に「学灯拓魂」の文字



を白く染め抜いたもので、実用的でデザイン性にすぐれたものに仕上がったと思います。新元号がどのようなものになるのか現時点では分かりませんが、平成の元号でカウントした場合、平成三十五年閉課程が決まっています。本校にとって、五十年は最後の周年行事でしたが、それにふさわしい形で終えることができたと思っております。

平成最後となる今年度は、皆様にはどのような一年でしたでしょうか。全国的には自然災害の多い年であったように思いますが、本県はその点では恵まれた一年であったようにも思います。今年度、皆様から頂戴したご厚情に感謝申し上げますとともに、新年度が皆様にとって心身ともに健康で、希望に満ちた年度となりますよう心からお祈りいたします。併せて、今後とも定時制への変わらぬ御支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

定時制創立50周年記念事業

第1回実行委員会

平成29年 7月22日(土)

八戸プラザホテル

グレースホール

第2回 8月22日(火)

以降本校会議室

第3回 9月27日(水)

第4回 12月 6日(水)

平成30年

第5回 4月23日(月)

第6回 8月27日(月)

第7回 10月20日(土)

記念碑の設置イメージ

(原寸模型)

全日制渉外部、志村先生

から、ご協力をいただき

課題研究にて製作

中村竜志 山田健太(4T)



青森県立八戸工業高等学校定時制 創立50周年記念講演

11月2日(金)

本校第1体育館

13:20~14:20

発表者 拓灯学部 拓灯学部 拓灯学部

発表者 拓灯学部 拓灯学部 拓灯学部

拓灯学部 拓灯学部 拓灯学部



記念品

紅白饅頭



手ぬぐい

拓灯学

八戸工業高校定時制創立50周年

平成30年11月2日(金)

12:30 記念碑除幕式

13:20 記念講演

15:00 記念式典

記念誌発行

学灯拓燈

生徒会長 山田健太(4T)喜びの言葉



山口聖龍(4T)

デザイン

八工祭で50周年

PR用ティッシュを

焼きそば購入者へ贈呈

